

(別記様式第 15 号)

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

小布施町

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	野生鳥獣の緩衝帯整備
事業費		338,906 円 (うち支援金: 336,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

高山村や中野市との境にある雁田山は、山麓が集落等と隣接しているため、地域の人々の生活に深くとけこんでいる。しかし、近年、林業の衰退及び急傾斜地であることから間伐などの森林整備がほとんど行われなくなってしまい集落等に野生鳥獣が出没することがある。

(2) 本事業の目的

雁田山の健全な森林環境を保全するとともに、野生鳥獣と農村集落の共存・共栄のため、緩衝帯を設けるとともに里山を整備することを目的とする。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所

小布施町雁田地区

(2) 対象者

地域住民、農協、行政、一般ボランティア

(3) 実施方法

鎌や太枝切鋏、ビーバー等での下草刈り及び高枝のこぎりでの枝払いを実施する。また、実施が困難な箇所については一部を委託して行った。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

緩衝帯整備 距離約 1,500m (各年度 300m) 幅 15m

②令和元年度実績

緩衝帯整備 距離約 300m幅 15m



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

野生鳥獣が身を隠せる下草を伐採することで、集落等に出没しづらくなる。森林整備を近隣住民自らが行うことにより、森林に対する意識が向上する。

(2) 継続性

近隣住民による緩衝帯整備は、平成16年度から継続して毎年実施している。下草が3~5年程度で成長してしまうため、同程度のサイクルで事業箇所を変更し実施していく。

(3) 普及性

雁田山麓には遊歩道も整備されているが、ウォーキングやランニング等で利用する住民も多い。また、岩松院や浄光寺といった町内有数の観光スポットもあり、観光客も多く訪れている。緩衝帯整備により下草を刈ることで、森林景観も良くなり、広く事業効果を普及することができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

住民ボランティアの協力も得て本事業を行った。地元自治会を中心に約119人の参加があった。

(2) 課題

- ①作業時期について、近年、ぶどう収穫後の11月第2日曜日になっているが、農作物の被害防止の観点からより効果を得るためには、春から夏にかけてなど早期に実施する必要があるのではないかと。
- ②今回、作業にあまり時間がかからなかった。この程度の作業時間(範囲)であれば、より早期に実施することも可能ではないかと。地元自治会と協議する必要があると思われる。
- ③今回の作業場所には日陰を作るような樹木がないため、すぐに下草が生えてしまう。今後、植樹等を検討する必要がある箇所でないかと思われる。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

年々、地域住民の山林に対する意識が向上してきていると考えられる。防護柵による侵入防止対策と組み合わせることにより、有害鳥獣による農作物の被害も軽減されてきている。今後も、継続して里山を地域住民と行政が一体となり整備していく。

事業内容を見直して継続する

(見直しの内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	小布施町
------	------

No.	事業項目	事業名
2	木を活かした力強い産業づくり	県産間伐材を用いたベンチの設置
事業費		41,250 円 (うち支援金: 41,000円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題
小布施町は県内一森林面積が狭い市町村であり、林業従事者もとても少ないため林業及び県産間伐材の利用に対する意識を醸成しづらい環境にある。

(2) 本事業の目的
県産間伐材を使用している旨を刻印したベンチを設置することで、森林税や間伐材など身近な林業への関心を高める。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所
小布施町内・中央公会堂

(2) 対象者
町民及び観光客

(3) 実施方法
県産間伐材をベンチに加工できる事業者に発注。町内の観光スポットであるおぶせミュージアム中島千波館に隣接した中央公民館に設置し、県産材のPRをする。

(4) 事業目標及び当年度事業量

- ①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)
県産間伐材使用ベンチ 25 基 (各年度 5 基) 設置
- ②令和元年度実績
県産間伐材使用ベンチ 1 基 設置



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

県産間伐材利用の促進及び地元林業の担い手の育成。県産間伐材及び森林税活用のPR効果。

(2) 継続性

町内全域にある観光スポットはその数も多く、全てに設置できずにいるのが現状である。また、住民からベンチの設置を求める声が寄せられていることもあり、効果をより普及拡大させるためには、未だ設置数が不足している。

(3) 普及性

小布施町の各所にある観光スポットに県産間伐材ベンチを設置することで、住民のみならず年間100万人以上訪れる観光客に対しても県産材のPRをすることができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

当町の森林は小規模所有がほとんどで、林業で生計を立てるものがないため、森林整備の促進と併せて、いかに森林税が活用され、間伐材が利用されているか、PRすることが重要である。

(2) 課題

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

当町には観光に訪れる人も多いため、今後も町の施策に合致する形で、あらゆる方策によりPRに努めていく。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

(別記様式第 15 号)

令和元年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

小布施町

No.	事業項目	事業名
3	みんなの暮らしを守る森林づくり	松林健全化推進事業の補助対象外の松くい虫被害防除
事業費		69,984 円 (うち支援金: 69,000 円)

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

公園や街路にある松はいわゆる国庫の補助の対象外であるが、それらの松に対してもいわゆる松くい虫の被害が発生している。

(2) 本事業の目的

国庫補助対象外の松くい虫被害木に対し、森林づくり推進支援金を活用し駆除することで、松くい虫の被害拡大を防ぐ。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 実施場所

小布施町内全域

(2) 対象者

地域住民、事業者

(3) 実施方法

事業予定地は公園等公共性が高く人の往来が多いエリアのため、集積・くん蒸することが難しい。そこで被害木を破碎処理する。

(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度)

破碎処理 15.0 m³ (各年度 3.0 m³)

②令和元年度実績

破碎処理 1.8 m³



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

被害木を処理することにより、次年度の被害の拡大を防止する。

(2) 継続性

松くい虫による被害は、年により被害量の増減はあるものの引き続き発生している。さらなる被害拡大を防ぐため、継続して伐倒駆除を行っていく。

(3) 普及性

松くい虫の被害木は、木々の緑が映える時期にも関わらず枯死し葉が赤色に変色してしまう。枯死した松を伐倒することにより、一目で景観も良くなり、広く町民に事業効果を示すことができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

松くい虫の被害が発生し、被害地区自治会長から駆除要望が寄せられた千両公会堂等での被害に対し、約 1.8 m²の伐倒駆除を実施した。

(2) 課題

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

今後も被害の拡大を防止するため事業を継続して実施する。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)